

令和 6 年 3 月 29 日
総 務 省
(一財) 自治体国際化協会

第 18 回自治体国際交流表彰（総務大臣賞）

自治体国際交流表彰（総務大臣賞）は、日本と海外の自治体の姉妹都市交流をはじめとした交流活動のうち、創意と工夫に富んだ取組を行っている団体を表彰し、広く全国に紹介することによって、自治体国際交流の更なる活性化を図り、もって地域の国際化に資することを目的としています。

このたび、次のとおり受賞団体が決定しましたので、お知らせします。なお、表彰式は後日開催予定です。

受賞団体

- 公益財団法人兵庫丹波の森協会（兵庫県）
- 和歌山県
- 美郷町（島根県）

（添付資料）

- ・（資料 1）第 18 回自治体国際交流表彰（総務大臣賞）受賞団体の概要（1～3 頁）
- ・（資料 2）自治体国際交流表彰（総務大臣賞）の概要（4, 5 頁）

（連絡先）

総務省自治行政局国際室 ^{たがしら} 田頭 参事官補佐、^{くわ た} 葉田 主査、朝日

電 話：03－5253－5527（直通）

E-mail：kokusai(at)soumu.go.jp

(一財)自治体国際化協会交流親善課 ^{しろず} 松田課長、白水

電 話：03－5213－1723（直通）

E-mail：shimai(at)clair.or.jp

※迷惑メール対策のため、「@」を「(at)」と表示しております。
送信の際には、「@」に変更してください。

第18回自治体国際交流表彰の受賞団体の取組について

資料1

公益財団法人 兵庫丹波の森協会（兵庫県） 交流先：オーストリア共和国 ウィーン市13区ヒーツィング地区

- 「森の文化」をテーマとした地域づくりを自治体が協働して行うために、当時丹波地域を構成していた10町（現在は、丹波篠山市及び丹波市の2市）が出捐し、本協会が設立された。
- 1993年にウィーン市13区ヒーツィング地区との間で友好親善提携宣言を行い、2023年に提携30周年を迎えた。
- 住民相互の派遣を中心とする人的交流をはじめ、国や民族、文化を超えた文化交流を実施している。特に、1989年に開始した親善訪問団の派遣は、その後も継続的に行われウィーンの森を訪問した丹波地域の人々は830名（1987年の視察団を含めれば845名）にのぼる。
- また、2015年のウィーン市13区長からの要望を受け、日本昆虫学会が日本の国蝶として選んだオオムラサキの飼育支援事業が開始している。ウィーン市のシェーンブルン動物園では、丹波地区から幼虫等の提供を受け、オオムラサキの繁殖に係る研究が行われている。
- 文化交流としては、シューベルティアードたんば音楽祭をはじめとするイベントを、継続的に開催。実行委員会に多くの地域住民が参加し、丹波文化団体協議会などの関係団体が密接に協働・連携することで長期にわたり活発な交流が行われている。
- 長い交流期間の中で、研究者等が主体となった科学分野での交流や地域住民が主体となった文化交流など幅広い層、様々な分野での交流が実現している。



1993年11月3日篠山町新たんば荘での調印式



オオムラサキ飼育支援交流の様子



丹波地域からの代表团訪問

第18回自治体国際交流表彰の受賞団体の取組について

和歌山県

交流先：インド共和国 マハラシュトラ州政府

- 2013年に観光及び農産品と食品加工分野における相互協力を目的とした覚書を締結したことをきっかけに交流を開始。覚書に基づき、和歌山県世界遺産センターとマハラシュトラ州アジャンタ・ビジターセンターが協定を結び、相互の世界遺産のパネル展示や広報PR、保全技術の交流を促進している。
- また、5年ごとに、より広い分野における相互の交流拡大を目指し覚書を更新するなど、継続的な活動が行われてきた。
- 現在は当初の交流分野に加えて、インド人日本語学習者の受入れなどの人材交流、インド伝統工芸士の受入れなどの文化交流及び青少年・スポーツ等の分野での交流も行っている。
- このような交流分野の拡大に伴い、行政のみならず、青少年、スポーツ関係者、世界遺産関係者及び議会など多くの主体が、積極的に関わって交流活動を実施している。
- 世界中の都市との間で姉妹都市交流が盛んに行われる一方、インド国内の自治体との交流はそれほど活発に行われていない。その中において10年に渡り交流を積み重ねており、こういった実績から、国内の他の自治体が、インド国内の自治体との交流を検討する際に和歌山県にアドバイスを求めるなど、日印の交流のゲートウェイとして、交流の拡大に大きく寄与している。



覚書締結10周年記念式典の様子



青少年交流(レスリング)への参加者



首都圏での共同観光PRイベントの様子

第18回自治体国際交流表彰の受賞団体の取組について

美郷町（島根県）

交流先：インドネシア共和国 バリ島マス村

- 1982年、美郷町（当時は旧邑智町）が国体のカヌー競技会場になったことがきっかけで、カヌー競技が盛んになり、1991年、カヌー博物館の開館の際のイベントとしてマス村から木彫り職人を招致し、カヌー製作を行ったことを契機に、1993年に友好協定を締結し、両自治体間で交流が開始。
- 30周年を迎えた令和5年度は年間を通じて町民のマス村訪問や記念式典、バリ文化を多く盛り込んだイベント等を開催している。
- 過去、マス村からの技術研修員や高校生のホームステイの受入れを行い、美郷町からは、毎年高校生が修学旅行でマス村を訪れるなど、長期間にわたり民間交流が続いた。
- インドネシアの伝統的な楽器「ガムラン」を使った音楽を演奏する団体が発足し、イベントでの演奏活動や、ガムランの中学校の授業での活用など、非常に独創的な交流活動を行っている。
- また、マス村と直接連絡を取り合い、バリ島内の住民に特化した技能実習生の受入れやマス村に十数年居住した経験を持つ方を地域おこし協力隊として委嘱し、地域住民とともにバリ島の伝統調味料「サンバル」を参考に、美郷町内の薬草を使った「みさとサンバル」を開発・販売を行うなど、経済交流や移住・定住にも繋がっている。
- このように、人的交流に加え、文化的交流や経済的交流が盛んに行われており、国際交流を関係人口の拡大や定住者の獲得など、地域活性化への取組に積極的につなげている。



マス村との友好協定30周年記念式典の様子



「ガムラン」修繕ワークショップの様子



マス村からの留学生受け入れの様子

自治体国際交流表彰（総務大臣賞）の概要

1 趣旨

日本の自治体と海外の自治体の交流活動（以下「自治体国際交流」という。）のうち、創意と工夫に富んだ取組を行っている団体を表彰し、広く全国に紹介することにより、自治体国際交流の更なる活性化を図り、もって地域の国際化に資することを目的として実施。

2 主催

総務省及び一般財団法人自治体国際化協会

3 表彰対象団体

自治体国際交流を行っている次の団体とする。

- (1) 都道府県及び市区町村
- (2) 地域国際化協会、国際交流協会等の民間非営利団体

4 表彰団体数

3 団体以内

5 審査基準

- (1) 先進性 他の模範となる先進的な取組 等
- (2) 独自性 創意工夫、地域独自の特性を活かした取組 等
- (3) 継続性 活動の継続、効果や実績の定着、（実績は少なくとも）今後の活動の継続性・発展性が期待できる取組 等
- (4) 活発性 活動内容の充実の度合い、頻度、広がり 等
- (5) 協働性・連携性 住民や企業との協働、連携 等
- (6) 効果 地域の国際化、地域経済の活性化、地域の知名度やイメージの向上 等

【審査委員】

審査委員会の審査を経て、総務省と一般財団法人自治体国際化協会が決定する。

○第 18 回自治体国際交流表彰（総務大臣賞） 審査委員会委員（令和 6 年 3 月 31 日時点）

- ・ 縣 公一郎 早稲田大学政治経済学術院 教授
- ・ 久邇 良子 東京学芸大学教育学部 教授
- ・ 荒見 玲子 名古屋大学大学院法学研究科 綜合法政選考基幹法・政治学 教授
- ・ 土山 希美枝 法政大学法学部 教授
- ・ 水田 秀子 公益財団法人 かながわ国際交流財団 前専務理事
- ・ 柴垣 禎 特定非営利活動法人 多文化共生マネージャー全国協議会 理事
- ・ ニーナ・ハッカライネン 外国人女性の会 パルヨン 代表理事
- ・ 荻澤 滋 公益財団法人 全国市町村研修財団全国市町村国際文化研修所 学長
- ・ 草壁 京 総務省自治行政局 参事官 兼 国際室 室長
- ・ 小池 潔 一般財団法人 自治体国際化協会 理事

第18回自治体国際交流表彰について

日本の自治体等で実施されている外国の自治体との姉妹自治体提携等に基づく交流活動のうち、創意と工夫に富んだ優良事例の取組を行っている自治体等を表彰し、広く全国に紹介することによって、自治体国際交流の更なる活性化を図るとともに、地域の国際化に資することを目的として、平成18年度から実施している。（第1回から第17回までの間で、49自治体等が受賞している。）

受賞団体

- ・公益財団法人 兵庫丹波の森協会（兵庫県）
オーストリア共和国 ウィーン市13区ヒーツィング地区との交流の取組
- ・和歌山県
インド共和国 マハラシュトラ州政府との交流の取組
- ・美郷町（島根県）
インドネシア共和国 バリ島マス村との交流の取組

最近の受賞団体

（令和6年3月31日時点）

○第17回（R5年5月）

- ・旭川・ブルーミントン・ノーマル姉妹都市委員会（北海道）
- ・川越市、川越市姉妹都市交流委員会（埼玉県）
- ・大阪市（大阪府）

○第16回（R4年5月）※報道発表のみ

- ・公益財団法人 加古川市国際交流協会（加古川市（兵庫県））
- ・認定特定非営利活動法人 岡山市日中友好協会（岡山市（岡山県））
- ・沖縄県

○第15回（R3年5月）※報道発表のみ

- ・名寄・リンゼイ姉妹都友好委員会（名寄市（北海道））
- ・鶴岡・ニューブランズウィック友好協会（鶴岡市（山形県））
- ・特定非営利活動法人 三重県日本中国友好協会（三重県）



第17回 自治体国際交流表彰（R5.5月）の式典

第18回 自治体国際交流表彰 審査委員会

- | | |
|-------------|--------------------------------------|
| 縣 公一郎 | （早稲田大学政治経済学術院 教授）【委員長】 |
| 久邇 良子 | （東京学芸大学教育学部 教授） |
| 荒見 玲子 | （名古屋大学大学院法学研究科 総合法政選考
基幹法・政治学 教授） |
| 土山 希美枝 | （法政大学法学部 教授） |
| 水田 秀子 | （（公財）かながわ国際交流財団 前専務理事） |
| 柴垣 禎 | （（特活）多文化共生マネージャー全国協議会理事） |
| ニーナ・ハッカライネン | （外国人女性の会 パルヨン 代表理事） |
| 荻澤 滋 | （（公財）全国市町村研修財団全国市町村国際文化
研修所 学長） |
| 小池 潔 | （（一財）自治体国際化協会 理事） |
| 草壁 京 | （総務省自治行政局国際室 参事官 兼 国際室長） |